2021 年 3 月 9 日発行
第 13 号
編集：歴らぼ編集部

歴らぼ通信

目次　01　歴史文化学科の活動　　02　歴らぼの活動

01　歴史文化学科の活動

コロナ禍、はじめての対面授業「基礎演習Ⅱ」を受講して

2020 年度後期の基礎演習Ⅱにおいて、私達は「歴史を学ぶこと」「自ら赴き調べる事」の大切さを学びました。これまで歴史は年表や出来事、人物を学ぶのがメインでしたが、自らの足で現地に出かけ、そこで得た発見から考察するといった歴史の学習方法を体験できました。また、歴史を学ぶことは現代の社会問題や課題の発見につながることが分かりました。現地に赴いて調べてみると、行ったからこそ分かること、身近なのに知らなかった歴史、現地で出会えた方々など、フィールドワークの大切さを知りました。この講義は歴史の知識だけでなく、何かもっと多くのものを得られた授業だったと思います。（1 回生：河内琉嘉・梶原咲良菜）

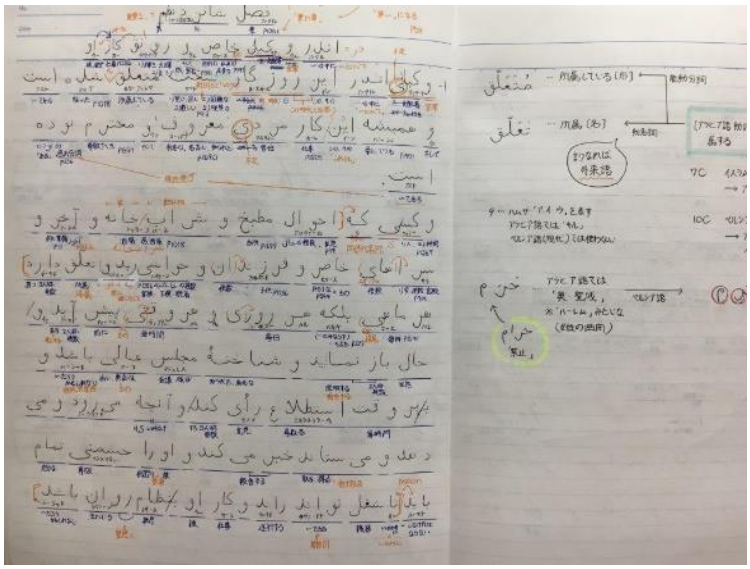
中辻ゼミ巡検@神戸

2020 年 10 月 24 日、私たちはフィールドワークで神戸の街を訪れました。私は神戸に住んでいるので「今更神戸でフィールドワークとか面白くないにも程があるでしょ…」と思ったのですが、実際に訪れた華僑博物館や移民ミュージアムは今まで行ったことのない場所で、非常に新鮮な気持ちで楽しむことができました。神戸と海外との関係を深く学ぶことができ、神戸の街の良さを改めて実感するいい機会となりました。昼食後に訪れた「ヴィーナスブリッジ」は、神戸の街が一望でき、絶景でした。今回のフィールドワークでは様々な楽しい体験ができましたが、一番面白かったのは先生がいきなり南京町でタピオカを買い始めたことでした。あまりにも突然すぎたので笑わざるを得ませんでした。2020 年の面白かったエピソードの中で第 3 位に入るくらい面白かったです。（3 回生・吉田菫）

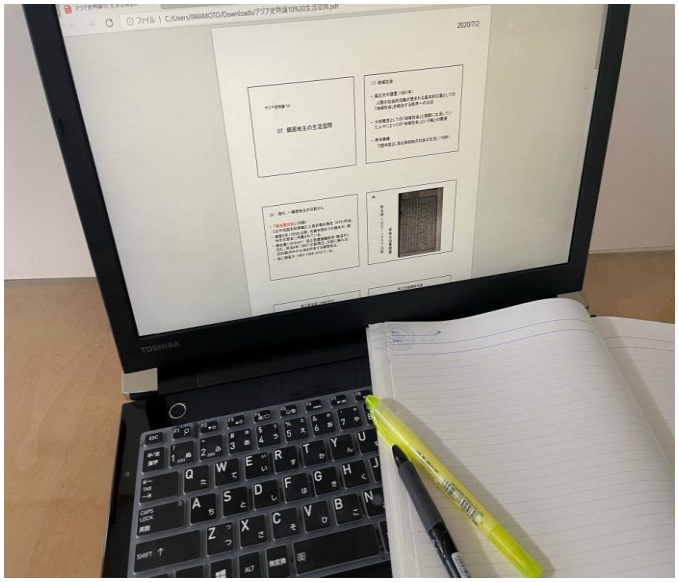
歴らぼ通信の刊行は、これで 13 号となりました。歴らぼ通信では、歴史文化学科における様々な活動を紹介しています。通信に記載される記事の多くは、ホームページ「歴らぼの WEB サイト」（http://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun）でも紹介していますので、そちらもご覧下さい。各記事を書いた学生の年数は記事の時期に合わせています。

アジア史史料研究Ⅲ・Ⅳ（担当：中町先生）の紹介

私は、中町先生が担当するアジア史史料研究Ⅲ・Ⅳの1年間の講義を通してペルシア語を学びました。前期では文字や基礎的な文法をオンライン講義で学び、後期からは再開された対面講義において、辞書を用いて資料を読解するという実践的な講義が行われました。ペルシア語は今まで学んできた言語とは大きく異なり、文字の形や音の響きは非常に興味深く、資料における詩的かつ独特な言い回しはとても面白いものでした。また、ペルシア語で簡単な自己紹介が出来るようになったり、他のアジア史の講義で登場するアラビア語の単語がなんとなく読めるようになったりと、講義外でも学習の成果が見られたのが、とても嬉しかったです 。（2回生・徳留亜美）



2020年度の講義を振り返って



2020年度、甲南大学では新型コロナウイルスの影響により、特に前期はオンラインでの授業が中心となりました。初めての授業形態であり、最初は、通信環境のトラブルやネット上での質問など、戸惑うことも多かったです。また、いつもなら学科で行っているフィールドワークやグループワークといった、実習的な学びも困難となりました。今年度の授業を通して、今まで当たり前に出来ていた実際に肌で感じる学びの有難さを痛感しました。オンライン化が進んでいく世の中において、歴史や文化を学ぶためには自ら動いて調べることは不可欠です。一刻も早く事態が終息し、みんなが共に活動しながら学べる日が来ることを願っています。（3回生・岩本佳歩）

博物館資料論（A）の学外講義

博物館資料論（A）の学外講義が、 2020年8月30日に神戸市立小磯記念美術館、11月8日に神戸市立博物館にて行われました。まず、小磯記念美術館では、初めに小磯良平の生い立ちやその画風について、次に展示室での工夫を学びながら作品を鑑賞しました。その後はバックヤードも含めた施設を見学し、貴重な体験となりました 。また、神戸市立博物館では、使用されていない展示室において講義を受けた後、常設展と特別展「和のガラス」を鑑賞しました。新型コロナウイルスの影響を受けてイレギュラーな対応や日程となりましたが、 学芸員として学ぶべき多くのことを吸収できたと感じました。（2回生・徳留亜美）

博物館の見学@博物館実習ＩA

2020 年 12 月 6 日、博物館実習 I における集中講義の一環として、神戸ランプミュージアムと神戸市立博物館の展示を見学しました。それはコロナのなか、ようやく実現できた見学でした。博物館の展示は、こうした状況下だからこそ伝わる内容もあり、神戸市博では、Twitter を活用して特別展の宣伝を促すパネルもありました。コロナの流行によって来館者が減少した博物館をどう支えるのかを考える事は、学芸員課程を履修する私達にとって重要な課題であると今回の見学で学ぶことが出来ました。（2 回生・中村紗彩）

東谷ゼミ巡検@姫路

私たち東谷ゼミでは、2020 年 11 月 15 日（日）、姫路城と兵庫県立歴史博物館へ行きました。午前は、先生から昔の大通りの説明を受けながら、姫路城に行きました。姫路城では、百間廊下や千姫の休息所とされる化粧櫓に行った後、六階まである天守閣を登りました。午後は、兵庫県立歴史博物館の通常展や特別展「女たちのひょうご」を見学し、着物や簪、化粧道具などの貴重な展示品がありました。コロナ禍の影響で遠出が難しく、例年よりもゼミとして集まることができない中での課外授業だったので、とても楽しかったです。　（2 回生・出渕優衣）

中町ゼミ Zoom インタビュー

私達中町ゼミでは、2020 年 11 月 19 日のゼミ終了後、2 名のエジプト人女性と Zoom を通じて交流しました。今、授業でコロナについて取り上げていることから、他国の状況をリアルタイムで聞けるという貴重な機会を頂くことができ、事前に考えた質問に対し、とても上手な日本語で答えて頂きました。その結果、エジプトも日本も特に違いはなく、コロナと向き合っている状況を知ることができました。このような状況だからこそ実施できた今回の授業に対し、協力して頂いた 2 名のエジプト人女性の方々に感謝しています。（３回生・橋本知子）

2020 年度・九州西洋史学会若手部会への参加

第 18 回 九州西洋史学会若手部会研究報告会
2020年11月29日（日） Zoomによるオンライン開催 10:30～16:40

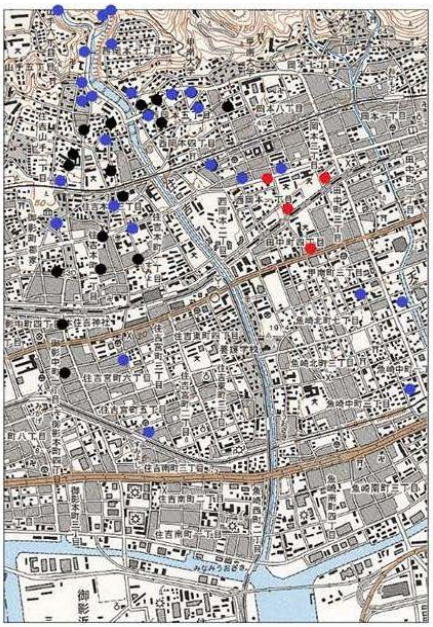
10:30–10:40　開会のあいさつ、Zoomに関する注意事項の説明

【A ルーム】
10:40–11:20　木寺　大祐（九州大学３年）
ポーランドにおける「蜂起の伝統」とユダヤ人
―１月蜂起を中心に―
11:20–12:10　植野　文一郎（福岡大学４年）
ドイツ革命における人民海兵団　―自意識と他者意識―
12:50–13:30　丹野　文佳（琉球大学３年）
20 世紀ソ連における芸術と政治の関わりについて
―ドミトリー・ショスタコーヴィチを中心に―
13:40–14:20　白須　大樹（北九州市立大学４年）
アファーマティブ・アクションの問題は本当に人種問題だけなのだろうか　―保守対リベラル以外の考えられる原因―
14:20–15:10　田口　智子（甲南大学３年）
近代イギリスにおける精神医療の脱施設化
―1890 年狂気法成立の影響を中心に―
15:20–16:00　藤井　太郎（熊本大学大学院修士２年）
アメリカ独立革命の海事的側面
―ニューイングランドのタラ漁を中心として―
16:10–16:40　全体の交流会、閉会のあいさつ

【B ルーム】
高橋　毅（九州大学４年）
「長い 18 世紀」イギリス帝国と海軍強制徴募
―1747 年ポストンにおけるノウルズ事件を巡って―
持　晴哉（甲南大学３年）
フランス革命前後の文学における精神性の変容と性の解放
―ルソーとサド―
井上　航生（福岡大学４年）
19 世紀アメリカにおけるボクシングとカラーライン
―黒人ボクサーの「貴らしさ」と出版メディア―
佐保　明良（熊本大学４年）
大西洋を越えたイタリア移民ネットワーク
―19・20 世紀転換期のニューヨークとブエノスアイレスを中心として―
赤嶺　佳帆（琉球大学４年）
1950 年代以降のアメリカにおけるレズビアン・コミュニティとゲイ解放運動
中山　葉（東京女子大学大学院修士２年）
ヴァイマル期ドイツにおける戦争記念碑の多義性
―エルンスト・バルラッハの記念碑を中心に―

2020 年 11 月 29 日、九州西洋史学会若手部会に参加しました（コロナ禍により Zoom で開催）。研究報告会には 7 大学から 12 人の発表者が集まりました。髙田ゼミからは、私（「フランス革命期の文学における理性と性の解放」）と田口智子（「近代イギリスにおける精神医療の脱施設化」）が発表しました。質疑を通して、自分のテーマと当時の政治や社会との関わりや、その歴史的文脈への位置付けなど、多くの今後の課題を見つけました。初めての参加でしたが、実りのある経験となりました。（３回生・栫　晴哉）

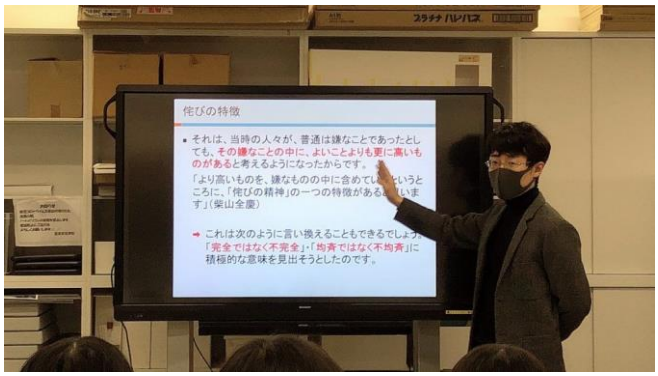
2019 年度卒業論文・中尾健人（中辻ゼミ）：地理資料からさぐる東灘区の土地利用の変化



現在、GIS を活用した生活構造に関する研究が以前より活発になっており、GIS の機能の一つであるジオリファレンスを用い、地図の重ね合わせによる土地利用変化を見ていった。対象地域として兵庫県神戸市東灘区を設定し、その景観の変化を調べた。第 2 章では昭和 13 年大水害により被害を受けた住吉川東岸の景観変化について、第 3 章では住吉系水車の分布と分析から仮製図・地形図の精度を検証し、第 4 章では保久良神社界隈の森林と六甲山はげ山の関連性を調べるため、GIS に加えて神社関係者の方への聞き取り調査もあわせておこなった。その結果、第 2 章では久原邸及びその周辺には甚大とまではいかないがやはり相当の被害を受けていたこと、第 3 章では現状の地図と水車分布図を重ねて水車の位置をまとめ、第 4 章では保久良神社界隈の森林が戦後の頃ははげ山ではなかったことが分かった。これにより東灘区における景観変化の実体をより明らかにすることができた。

02　歴らぼの活動

歴かふぇ 10：長岡徹郎先生



編集部では、2021 年 1 月 6 日(水)、本校で哲学の講義を担当されている長岡徹郎先生をお招きし、第 10 回歴かふぇを開催しました 。「日本文化鑑賞のコツって何!? 比較文化から学ぶ日本文化のおもしろさとは」をテーマに、先生の趣味である茶道をメインとして、実際に茶道の道具を披露しつつお話頂きました。例えば、茶道の茶碗に外国製の物が使用されるように外国文化の影響が見られたり、当初「わび・さび」は良い意味として使われていなかったりと、意識せず誤解してしまっている点が多々あることを知りました。日本に暮らしながら、今まであまり意識してこなかった日本文化について、今回のお話しを契機に理解の一歩を踏み出せたと思います。（3 回生・住田七海）

白鶴美術館連携プログラム「博物館学芸員の仕事を知る」

この白鶴美術館と本校提携による企画は、来館者が展示作品をより理解するために、学生企画のワークショップの実践、学芸員の仕事を知るための研修や見学の実施など、様々な活動を行うものです。2020 年 8 月 8 日の研修会では、奈良文化財研究所と京都にある古民家や森本金具資料館を見学し、発掘現場からの遺物の出土状況について学んだり、当時の大工や指物技術が活きる建築で生活空間を実感したり、また伝統的な襖や扉の取っ手となる装飾的な金具などの製作方法を知ることができました。ここで学んだことを生かして、来年度の活動計画を進めたいと思います。（2 回生・入江　愛）

編集：徳留亜美（2 回生）・鳴海邦匡
発行：甲南大学文学部歴史文化学科
発行日：2021 年 3 月 9 日　連絡先：〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 TEL078-435-2874（学科事務）